

育成会 かわさき



知的障害者親の会 会報 No. 185

2017・5・1

全国手をつなぐ育成会連合会の課題とこれからの運動について

寄稿



全国手をつなぐ育成会連合会
会長 久保 厚子

川崎市育成会手をむすぶ親の会ならびに関係者の皆様にはお変わりなくお元気でご活躍のことと存じます。また、平素は育成会の活動にご理解とご尽力を賜り心から御礼申し上げます。約2年ぶりのお便りを差し上げることをとても嬉しく思っております。

国の委員会に参加して 昨年度は【内閣府】の「障害者政策委員会」「成年後見制度利用促進検討委員会」「認知症等（知的障害を含む）の意思決定の在り方」【内閣官房】の「ユニバーサルデザインの心のバリアフリー分科会と街づくり分科会」更に、【厚労省】の「社会保障審議会障害者部会」「多様な働き方検討委員会」、【文科省】の特別支援教育の通級指導教員の増員【国土交通省】【全国社会福祉協議会】【JIS マーク委員会】その他多数の国や関係団体の会議に参加し、育成会連合会として意見を述べ、制度の充実に成果を上げてきました。

国に対する育成会連合会の存在感は大きく国からもその存在の大きさを認められています。そのうえで川崎市育成会手をむすぶ親の会の結城会長様と共に川崎市育成会の会員の皆様の声を厚生労働省や文部科学省に届けています。

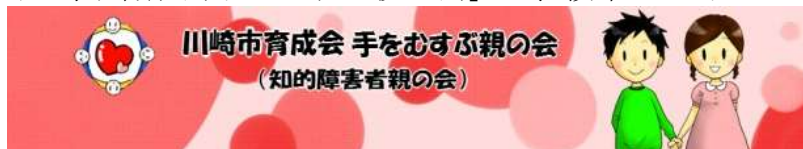
今後の私たちの動きとして ①「地域生活支援拠点」の推進「総合支援法3年後の見直し」の具体的・効果的な運用への市に対する要望、②「成年後見制度の周知」「親亡き後の本人のお金」などに関する研修会、「障害者虐待防止法の地域での推進と見直し」「障害者差別解消法の地域展開」障害者理解のための「疑似体験の地域での推進」本人向けの総合支援法や虐待防止法・差別解消法の「分かりやすい版の活用」「選挙への参加支援と練習」などを具体的に進められるように、地域の課題に合わせた研修に皆様とともに力を合わせて進んで行きたいと思っています。

- 地域の現状を把握しましょう！
- 不足している物はまず動きましょう！
- そして行政に要望しましょう！



ホームページ

「川崎市育成会手をむすぶ親の会」で、検索してください。



都道府県・政令指定都市育成会代表者及び事務局長合同会議

会長 結城 眞知子

3月3日（金）に日本橋茅場町の鉄鋼会館での会議に出席しました。平成29年度事業計画（案）から抜粋して報告します。

1. 災害支援基金の創設について⇒すべての災害に迅速に対応できるように災害支援基金を創設する。
2. 地域育成会の活性化に向けて⇒区市町村単位の育成会にまで情報が届き、様々な年齢層の会員を得る事ができるよう、育成会活動の活性化と継続的な発展が図られることを目的として、研修事業費を助成する。
3. 権利擁護センター⇒各分野での知的障害者への差別解消法への取り組みと合理的配慮についての検証を行う。＊知的障害者への理解啓発の活動・キャラバン隊の事例を集積して「知的障害の理解啓発活動事例集」を作成する。
4. 政策センター⇒育成会フォーラムの開催。＊必要な法改正などへの対応、地域生活支援拠点事業への取り組み、障害者基礎年金の基準見直しへの対応、療育手帳の在り方の検討、インクルーシブな児童発達支援、教育分野への提言、各正会員への情報提供や意見の収集等
5. 国際委員会⇒情報提供・国際育成会連盟との連携
6. 本人活動支援委員会⇒事業計画



急激に進行する少子高齢化の状況を確認しながら、育成会としての進むべき道を考えていきます。特に気になる高齢化と介護保険との関係、とりわけ親なき後の住まいや支援やお金のことはどうするのかなど、私たちの関心の高い内容についてもふれていき、次世代につなげられる組織運営を目指していきます。

中央ならではの活動に注目しながら、川崎市育成会手をむすぶ親の会のあり方をいま一度見直すきっかけにしていきたいと思えます。

2016年度行政説明会

副会長 美和 とよみ



3月2日（木）全国手をつなぐ育成会連合会主催の行政説明会が鉄鋼会館で行われ、当会からは結城会長と安達分室長とともに3名が参加しました。

我が国における障害者施策の現状と今後の方向性について、各省の担当課からの行政説明を通じて、動向に関心を持ち、必要な体制を構築していくために行われました。

『障害福祉施策の動向』 厚生労働省社会・援護局障害福祉部障害福祉課

『障害者雇用の現状と課題』 厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課

『特別支援教育行政の現状と課題』 文部科学省初等教育局特別支援教育課

障害福祉施策のこれまでの経緯から予算、障害者雇用促進法の改正や特別支援教育まで、広範囲に及ぶ説明がありました。

高齢障害者の介護保険サービスの円滑な利用では、利用者負担の軽減などが今後政令で定められますし、高齢者と障害児者が同一の事業所でサービスを受けやすくするための共生型サービス事業所や、地域生活を支援するサービス（自立生活援助）の創設など、ますます関心を持って行かなければと思えます。

法律や制度・国の施策などを学び、川崎市へ要望を出して行く必要があります。子ども達が安心して地域生活を営むことができるよう、会員の皆様のご意見を伺いながら、行政へ意見・要望を出して行きたいと思えます。

『川崎市育成会手をむすぶ親の会第5回総会』開催のお知らせ

総会は代議員制とし、支部から推薦又は選出した代議員及び全会員から立候補して出された代議員と会則第8条の役員のうち会計監査を除く役員をもって構成し、開催します。

日 時 : 平成29年5月30日(火) 10時30分～12時
場 所 : 地域福祉施設「ちどり」1階 会議室

代議員数

支部名	定数
中央支部	2
大師支部	2
田島支部	2
幸支部	3
中原支部	3
高津支部	4
宮前支部	3
多摩支部	4
麻生支部	2
田島支援学校支部	2
中央支援学校支部	2
立候補者枠	5

【議事】

1. 会則改正(案)について
2. 平成28年度事業活動報告(案)
3. 平成28年度決算報告(案)・会計監査報告
4. 次期役員選出(案)について
5. 平成29年度事業活動計画(案)
6. 平成29年度予算(案)

- ・ 支部代議員数は最低2名とする。
- ・ 候補者枠5名、役員6名
- ・ 代議員として立候補される方は、5月12日(金)までに各支部長にお申込みください。立候補者枠を超えた場合は抽選とさせていただきます。

平成29年度川崎市心身障害児者福祉大会

心身障害児者とその家族の地域福祉の向上を図るために開催されます

大会スローガン 「障害のある人もない人も共に生きる川崎の街に」

日 時 : 平成29年6月24日(土) 13時～(受付12時30分～)
会 場 : 川崎市総合自治会館ホール 川崎市中原区小杉町3-1

* 駐車場が狭いため、公共交通機関をご利用ください。



第一部 式典 13時～13時40分

第二部 講演会 14時40分～16時

『いま知っておきたい2つのこと

～障害者差別解消法と我が子の「お金」のこと～』

講師 又村 あおい 氏

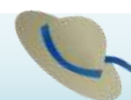
多くの方の参加をお願いいたします。

「海水浴の集い(海水訓練)」のお知らせ

実施日 : 平成29年7月26日(水)

場 所 : 勝浦 ホテル三日月(千葉県勝浦市)

詳しい内容は、後日配布されるチラシをご覧ください。ご参加をお待ちしております。



平成29年度川崎市への予算要望回答について

副会長 宮澤 明



2月27日(月)に当会三役が出席し、宮脇護障害保健福祉部長、下浦健障害福祉課長、柳原成行障害計画課長から、回答の概要を伺い、意見交換を行いました。

要望課題の多くについては、継続扱いとなる中で、県内で初めて障害ショートステイを併設サービスとする特別養護老人ホームが井田地区・旧社会復帰棟エリアに建設される旨の説明がありました。同ショートは障害者総合支援法での利用となり、高齢者とは限らない。医療的処置の必要な人の利用もできるとのこと。

平間配水所跡地に平成31年度開設の生活介護事業所にショートステイを併設する施設は、中原区の地域生活支援拠点施設として位置づけ、拠点となるような機能を付加していくことになると述べられた。

意見交換で、当会からは、ヘルパー不足で必要な時に対応できない事例が聞かれるので実態を踏まえて拡充してほしい。親亡き後の拠り所を担っているグループホームについては、市側から待機者の実態については把握していないが、第4次ノーマライゼーションプランにおいて、28年度90床、29年度は100床と増床させている。利用者ニーズを的確に把握し、整備数など検討していくと報告される一方で今後の増床は民有地において行われるとの方針が改めて示されました。このほか、多岐にわたる課題について意見交換を行いました。

宮脇部長は「障害者が地域で暮らしていく上で、課題がいっぱい残っていることは承知している。皆さんと力を合わせて、やっていきたい」と述べられました。

「大規模災害に障害(児)者が備える為に」

～熊本地震における状況から考える～

講師 川崎市健康福祉局地域福祉部地域福祉課課長補佐 長井 武志 氏
川崎市障害者更生相談所南部地域支援室担当課長 野木 岳 氏



3月14日(火)に研修会を行いました。講師の方々には昨年4月に起きた熊本地震の後、川崎市の職員として熊本に派遣された方で、被災の現場状況の把握や支援をされてきました。お二人から見せていただいた写真で、改めて被害状況の大きさがわかりました。

熊本市は日頃からの訓練や備えがされていたため、被災後数日で安否確認ができたそうです。しかし被災地の方々のみでは対応しきれないことも多いためその手助けもされてきたそうです。

野木氏は一週間という短い期間でしたが、広範囲の福祉避難所を回り、困っている障害者の方たちの話に耳を傾け、相談支援に繋げた事例を話してくださいました。

首都圏が被災した場合、指定避難所・二次避難所の開設・運営、それからの支援などなど、たくさんの課題があり検討しているとのことでした。

災害時に安否確認が必要と想定される名簿の対象範囲に、今年度から、知的障害(A1～B1・障害サービス利用者)が加わりました。

川崎市は神戸、中越、福島へも心のケアチームとして派遣の経験があったそうです。被災地支援というと民間のボランティアと考えていましたが、行政としての支援体制がこんなに細かくされていることを初めて知りました。また、我が家の防災の備えも再度確認したいと思います。

(小西 真弓)

2016 年度育成会フォーラム（3月3日） 鉄鋼会館 801 会議室にて

【基調講演 1 これからの育成会運動】

全国手をつなぐ育成会連合会長 久保 厚子 氏

まだ、障害者への理解や福祉の整備がされていない時代に生まれた「育成会」は、社会を変えてきた団体の一つですが、この 15 年余り、福祉サービスが整備されたことや情報化社会が広がったことで、人とのつながりが薄くなり、若い人が「育成会」に魅力を感じなくなってしまう、会員の高齢化が進んでいるとのことでした。

久保会長の「長年運営してきた組織は、そのまましていると周囲のニーズに鈍感になり老化してしまいます。今こそ、『育成会』の理念である障害のある人たち（我が子）の幸せを実現するために、フットワーク良く、柔軟に、新しいアイデア（若い親のニーズなど）に対応できる体制（組織）作りが必要だと思います。」との言葉に、障害があっても生き活きと生活できる社会を「育成会」が実現し続けていくのだという熱い思いを感じました。



【基調講演 2 これからの育成会運動を取り巻く社会情勢】

毎日新聞 論説員 野澤 和弘 氏

野澤さんがインタビューした歴史人口学者のエマニュエル・トッドは、「日本では親に対する子どもの負担、子どもに対する親の負担があまりに大きい。そのために出生率が低い。」と述べ、「介護、子育てを公的制度で薄めることが必要」と指摘したそうです。核家族化が進んだ社会では、そういった政策を推し進めることで出生率が上がるのかも知れないと思いました。

障害者施策等への予算が増え、利用者も増え、参入する事業者が広がりこれからの障害者福祉は、限られた予算をどこに投入するか、施設職員の働き方をどう改革していくか、地域共生型福祉を実現できるのか、そして、障害のある人のイメージを変えていけるのか、といった選択を迫られるとのことですが、この裏には、日本の人口問題が隠れていることを感じました。エマニュエル・トッドによると、「日本にとっての脅威は人口の減少と人口の老化」とのこと。この脅威を乗り越え共生社会を実現するためにも、野澤さんがおっしゃった「社会に能動的に関わる（互助）」を実践していくことが大切だと思いました。



【シンポジウム これからの育成会運動で大切な視点】

シンポジスト

又村 あおい 氏	「手をつなぐ」編集委員
野澤 和弘 氏	毎日新聞 論説員
大塚 晃氏 氏	上智大学教授
久保 厚子 氏	全国手をつなぐ育成会連合会長
田中 正博 氏	全国手をつなぐ育成会連合統括

1. 地域生活支援拠点の整備は、平成 33 年 3 月まで延長される見込み
2. 自立生活援助（定期的に単身で生活する人を訪問する支援）の課題
3. 共生型（障害福祉サービス事業所が介護保険サービスを併設しやすくする仕組・類型）
4. 後見制度利用促進法について
5. 2016 年 9 月から、障害基礎年金審査のガイドラインでは「総合評価方式」を提示
6. 知的障害や発達障害のある人への差別や合理的配慮について

上記の項目について話がありました。どの項目にも、本人の意思を確認・代弁できているのかといった視点が必要かつ重要であることを再認識しました。また、多くの人に、障害特性を理解してもらうことが課題解決への近道だとも思いました。（仁尾 智都子）

やまゆり知的障害児者生活サポート協会との共催研修会

「親なき後も知的障害者が安心して暮らすためのお金について」

～知的障害のあるわが子に必要なお金とは～

2月17日（金）講師に又村あおい氏をお招きして研修会を開催しました。当日は嵐のような強風が吹いていましたが、150名を超える参加者があり関心の高さが伺えました。

今までどれくらいの給付を受けてきたのか、これから我が子が生きていくためにどれほどのお金が必要なのかなど、具体的な数字をあげてお話していただきました。自分が子育てを始めた頃と比べると福祉サービスは格段に進歩していますが、それだけお金も必要になります。そして、お金だけではなく大切なのは豊かに暮らすための「人」というお話がありました。改めて人との関わりは重要だと思いました。

また、障害のある子どものために親が入る保険の話ではメリット、デメリットをあげて、分かりやすく解説していただきました。成年後見支援信託など耳慣れない言葉も出てきて、お金の話はなかなか奥が深いです。ある程度のお金を残してあげるということはもちろん大切なことですが、それ以上に大切なことは毎日の充実した生活を維持していくことなのだろうと感じました。参加した方が想定外に多かったため、資料が足りない、スクリーンも見づらいなどご不便をおかけして申し訳ありませんでした。これからも、皆さんが聞きたい話にスポットをあてて、魅力のある研修会を企画したいと思っています。

（研修事業推進委員 梅田 順子）



やまゆり知的障害児者生活サポート協会研修会

自己決定支援をどう考えるか ～「悩み」続ける福祉援助実践～

講師：神戸女学院大学文学部総合文化学科准教授 與那嶺 司氏

3月10日（金）やまゆり研修会が開催され、「自己決定支援」の考え方についてお話を聞く機会を得ました。

この講演会では自己決定支援とは何かを教えてくださいました。また、なぜそのような観念が必要なのかを丁寧に話され、参加者は皆、緊張した面持ちで聞き入りました。

自己決定とは、自分のことは自分で決めるということに尽きますが、それを実践するまでには幾多の困難が予想でき、周囲の人々からの支援や、地域の力の必要性をも痛感する次第です。自己決定はそのプロセスが重要で、悩み続けながら多岐にわたり本人が決めるという姿勢を支えることが大事だと説明されていました。

そして、この講演の根幹をなすものは、自己決定を尊重することにより生活の質が向上するということだと思いました。生活の質があがれば健康状態が改善され寿命がのび、結局、社会が豊かになり活性化するかもしれません。自分で自分のことを決められない環境にあると、人は考えることをやめてしまうそうです。そうならないためにも、自己決定支援をめざすべきだろうと思います。

障害者差別解消法が施行されて一年を迎えましたが、多くの人に理解されているとは言えないのが実情です。この法律が国民全体に馴染むために、政治、行政、マスコミなどの協力をもっと必要だと感じた講演会でした。

（篠原 博）



「かわしん ふれあい市場」のお知らせ

日 時：5月19日（金）10時～15時 場 所：川崎信用金庫本店
ぜひ、お出かけください。

NPO 法人かわさき障がい者権利擁護センター

模擬相談会「親亡き後のために、今すべきこと」

2月3日（金）川崎市総合福祉センターにて開催されました。

まず、事例1として、両親と3人で暮らす中度の知的障害の30代の女性の「意思決定支援」について、弁護士の大石剛一郎氏が話をされました。



大石 剛一郎氏

女性は、自分の意思をあまり示さない方とのことですが、だからと言

って意思表示ができないわけではありません。受け取る側の努力不足や、「どうせできないのだから」という決めつけ、また、本人の経験や体験の不足などのためかもしれないのです。権利は主張しないと実現しません。その主張が「意思表示」です。意思表示が難しいからこそ、それを支援することが重要です。寄り添い、見守りながら、少しでも本人の意向に添った支援が求められています。



神谷 直氏

次に、事例2として、高齢の両親と3人で暮らす重度の知的障害の50代男性の相続について、司法書士の神谷直氏が話されました。

障害者の場合、判断ができないと遺産分割協議が成立しない可能性があります。また、相続できても、一定の長い期間をどう管理するのかという問題もあります。相続対策の準備としての「遺言書」の用意、財産管理の対策、信託制度、成年後見制度の活用など、親として、考えておかなければならないことはいろいろあります。会場からも、たくさんの質問が出て、関心の高さが伺えました。

専門家が、具体的な事例に例えてやさしく説明してくれるこの模擬相談会は、とても良い勉強になりました。
(高山 君子)

障害者団体部会 リーダー研修会に参加して

田島支部 安達 ゆかり

2月7日（火）川崎市総合福祉センターにて「現代社会における社会的つながりの再構築」についての講演会があり、沖縄大学名誉教授、加藤彰彦氏を講師にお話を伺いました。加藤さんは、沖縄で優しい人々とふれあい、地域にすぐに馴染めたそうです。「現代は失業や会社の倒産などで職が奪われ、人々が孤立化してしまい、人間関係が希薄になりつつある。そして、職場・学校・家庭などで、いじめや差別がおこる」そのような悲しい現実を恐れを感じました。しかし、加藤さんは、「地域で一人一人の居場所や役割を持たせることで、必要とされる自信が生まれる。その人たちは、少しずつだが地域に繋がっていき、やがてネットワークの再構築ができる」とおっしゃっていました。支援を必要とする障がい者やお年寄りの手助けになる人材の掘り起こし、地域で「ともに生きるコミュニティーづくり」を目指すべきということでした。



講演後、優しい社会で子どもたちの生活が出来たなら、ほんとうに幸せだなと思い、希望が持てました。

第4回あんしんノート書き方講習会報告

権利擁護委員会

3月9日（木）地域福祉施設「ちどり」であんしんノート書き方講習会を開催しました。9名の参加でした。今回のテーマは、～今年度をふりかえって～でしたが、参加者からは様々な“素朴な疑問”が出されました。中でも、印象に残ったのは、相談支援員の方々の仕事量の多さでした。これについては、今後、皆様からも意見を伺う予定です。

今年度より、名称も新たに、「あんしんノート」に記載する話題を中心に、この会を開催しますので、ぜひ、ご参加ください。（詳しくは、チラシをご覧ください。）



支部通信

たかつボランティアまつり

高津支部 三浦 ルイ子

1月28日(土)たかつボランティアまつりに4名で参加しました。今回は、当会の活動をより多くの方に知っていただきたく、パネルを展示しました。各団体の紹介や活動の様子などを、施設の利用者が作ったお菓子をいただきながら、ライブパフォーマンス(フラダンス・体操・コーラスなど)も楽しみました。今回も、会員の娘さんが参加してくださいました。



おしゃべり多摩3月

多摩支部 神田 明子



3月17日(金)10名の参加者でお茶とお菓子を囲んで行いました。

NPO法人かわさき障がい者権利擁護センターの保佐人業務を担当している方から仕事内容などをお聞きしました。月に1回は面談をするとのことで、「相談がある」と電話があったので来週行くともっていました。日々の生活の中で子どもの権利を侵害していることに気付かされる時もあり、親として、ゆくゆくはこうして

ほしいという思いでお手伝いをしているとのことでした。

また、別の方から「子どもがまだ小さいころ、笑顔の出る子どもに育てなさいと訓練先で言われて心がけている」ということを聞きました。

私はどこまでできているだろうかと考えさせられましたし、やらなくてはならないことがまだまだあると改めて思いました。

今回も楽しく笑いのあるひとときの中にとっても大切なお話を聞くことができました。

自由投稿

～ 出会いを願って ～

中原支部 西澤 知子

子どもが養護学校(現・中央支援学校)高等部を卒業して5年目の春、当会との出会いはどうだったのだろうか振り返ってみました。養護学校高等部入学時に、当時の地福協に入会したのは、いずれどこかの親の会に入らないと卒業後困るかな?との思いで入会しました。在学中は何かと忙しくて(その頃は就労の事で頭がいっぱい)、会の催しに参加する事はありませんでした。卒業後は、特に勧誘もなく自分で支部長さんに電話する勇気もなかったのが、一時退会状態でした。今思えば「ちどり」にある事務局に電話すれば良かったのです。近所のスーパーの前で子どもの中学時代の先輩ママに声をかけられておしゃべりに花が咲き...その方が現支部長さんで再入会しました。

支部によって違うのですが、施設見学や新年会などがあって、年金やグループホーム、他の施設・病院の情報などいろいろなお話を聞くことが出来て嬉しかったです。

研修会も、これから自分たちに何が必要なのか知る手がかりになっています。入会すると、役員を強制されるのでは?と心配される方も多いかと思いますが「出来る事を出来る時に、出来るだけ...」だと思います。福祉が後退しないように、勉強と運動は必要です。

子ども達をとりまく環境が「こうなって欲しいんだ」という事を伝えられる場でもあるし、会員になるだけでも「無関心ではありません!」と意思表示になると思うので仲間が増えていくことを願っています。



春の宿泊レクリエーション 茨城県大洗と筑波山温泉バス旅行

余暇活動委員会 吉野 明美



3月5日(日)～6日(月)で春のバス旅行に出かけました。茨城県のアクアワールド大洗で、イルカショーを楽しみ、かねふくのめんたいパーク大洗では、工場見学と出来たての明太子の試食が出来ました。夜は大広間での宴会で、カラオケや踊りで盛り上がり、最後は全員で炭坑節を踊りました。

2日目は、筑波山神社を参拝し、その後ロープウェイで女体山へ登りました。あいにくの曇り空でしたが、雲が流れる様子を見ることができました。筑波ハムでの昼食は、あまりにもお肉が美味しくてご飯の来るのが待ちきれない人が多かったようです。

ゆったりとした行程の為、のんびり楽しい2日間でした。

私たちの広場 「勉強会」

支援者 針木 正子

昨年12月11日(日)恒例となった勉強会を行いました。

今年は、ザ!足裏健康法。前半は講義、後半は実技で各々セルフマッサージをし、自分を癒し1年の疲れをとりました。

東洋医学に「陰陽五行学説」があり心と身体がつながっており「からだ全体」のバランスを整えることが大切なこと。そして、私たちの足には身体の臓器・器官の健康状態を映し出す鏡『反射区』がある。足は第二の心臓と言われる循環原理があり揉むことにより健康効果が出る。そういえば、なる程などと思うことあり、皆さん熱心に聴き講師の方のお話しにふっと肩が軽くなったような。さあ、実技開始です。足の裏には、それぞれ臓器のツボがあり揉む順番がある事、揉む前から痛いとお騒がせする人もいましたが、皆な真剣にマッサージ、体がポカポカして軽くなった感。痛気持ち良い!リラックス、リフレッシュ!心地よい勉強会になりました。



「料理教室」

支援者 数金 和子

恒例の料理教室が2月26日(日)川崎市栄養士会指導のもと行われました。今回の私たちの広場参加者は男性5名2班に分かれ「あんかけ焼そば・焼き餃子・フルーツヨーグルト」を作りました。この料理にはこれが必要!と率先して準備をし、時には集中し慎重に包丁を手に形を揃えて切るなど年々手際も良くなりました、餃子の具を包む作業では苦戦されている方もいましたが個性的な形の餃子が出来上がりました。今回のテーマ「みんなで食べると楽しいね!」といった感じで美味しく楽しくいただきました。

2017年度版

生活サポート総合補償制度

知的障害児者・自閉症児者のための AIUの普通傷害保険(知的障害者等福祉団体傷害保険特約、地震・火災・津波危険補償特約セット)

<p>被保険者 (補償の対象者)</p> <p>知的障害児者または自閉症児者をご加入できます。</p>	<p>補償期間 (保険のご契約期間)</p> <p>2017年4月1日から 1年間</p>	<p>掛金 入院2日目から補償プランB/ 掛金… 23,000円(保険料 19,810円)</p> <p>入院4日目から補償プランA/ 掛金… 17,000円(保険料 14,810円)</p>
--	--	---

詳細は取扱代理店にお問い合わせいただくか、専用のパンフレットをご参照ください。また、ご契約に際しましては、事前に重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)を必ずご確認ください。引受保険会社の損害保険専業人は、保険契約の締結の代理権を有しています。

保険のお問合せはこちら

<p>■ 担当代理店 株式会社 ジェイアイシー</p> <p>〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビル2号館2F TEL: 03-5321-3373 FAX: 03-5321-4774 受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)</p>	<p>■ 引受保険会社 AIU損害保険株式会社 東京第二支店</p> <p>〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル14階 TEL: 03-6894-9110 http://www.aiu.co.jp 受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)</p>
---	--

※毎月1日付で加入できます。よろしくお願いたします。

ご加入のお問合せはこちら

やまゆり知的障害児者生活サポート協会

〒221-0844 神奈川県横浜市神奈川区河原4-2
神奈川福祉会福祉会館内
TEL: 045-314-7716 FAX: 045-324-0426
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

(JA-00628 2018-03)

川崎市関係主要職員の紹介（平成29年4月1日現在）

【健康福祉局】

健康福祉局長	成田 哲夫
障害保健福祉部長	宮脇 護
障害計画課長	柳原 成行
障害計画担当課長（事業者指導）	石原 明敏
障害福祉課長	砂川 康弘
精神保健課長	右田 佳子
障害者雇用・就労推進課長	西川 洋一
精神保健福祉センター所長	竹島 正
精神保健福祉センター担当課長	津田 多佳子
こころの相談所長	竹島 正
障害者更生相談所長	手塚 光洋
障害者更生相談所担当部長（発達相談支援）	中山 浩
障害者更生相談所担当課長（南部地域支援室）	野木 岳
井田障害者センター所長	岡部 健
百合丘障害者センター所長	森江 信子

平成28年度特別支援学校等卒業生の進路状況

1. 卒業の状況

学校名	卒業生数
市立中央支援学校	60
市立田島支援学校	43
市立聾(ろう)学校	0
県立鶴見養護学校	4
県立中原養護学校	39
県立高津養護学校	50
県立麻生養護学校	16
市外特別支援学校	11
その他の学校	35
合計	258



2. 近年の特別支援学校等卒業生進路状況

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	
日 中 活 動	就労移行	34	37	33	12.8 %
	就労継続	29	19	25	9.7 %
	生活介護	69	78	72	27.9 %
	自立訓練	0	1	0	0.3 %
	地域活動支援センター	5	5	8	3.1 %
	計	137	140	138	53.8 %
入所		2	3	6	2.3 %
就職		60	67	67	25.9 %
職業訓練機関		6	6	1	0.3 %
進学		6	12	17	6.5 %
その他		18	33	29	11.2 %
合計		229	261	258	100.0 %

『手をつなぐ』を購読しませんか！

全国手をつなぐ育成会連合会の機関紙『手をつなぐ』は、知的障害のある人の暮らしに役立つ情報が満載です。身近な問題から福祉施策の最新情報などを年間3,900円で毎月お届けします。

購読のお申込みは、各支部役員までご連絡ください。



川崎市育成会手をむすぶ親の会活動報告
 《平成29年1月25日～平成29年4月18日まで》

<各種会議、行事>

2月	3日(金)	第5回余暇活動委員会	地域福祉施設「ちどり」
	7日(火)	中原支部新年懇談会	福祉パルなかはら
	9日(木)	高津支部新年懇談会	福祉パルたかつ
	10日(金)	川崎3支部新年懇談会	南身館
	13日(月)	麻生支部新年懇談会	福祉パルあさお
	13日(月)	幸支部新年懇談会	さいわい健康福祉プラザ
	14日(火)	三役会議	地域福祉施設「ちどり」
	16日(木)	第5回権利擁護委員会	地域福祉施設「ちどり」
	17日(金)	やまゆり知的障害児者生活サポート協会と共催研修会	ユニオンビル(武蔵小杉)
	20日(月)	多摩支部新年懇談会	福祉パルたま
	21日(火)	第10回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」
	23日(木)	宮前支部新年懇談会	藍屋(宮前平)
	27日(月)	第4回広報委員会	地域福祉施設「ちどり」
	27日(月)	平成29年度川崎市予算要望回答	ソリッドスクエア
	28日(火)	第6回研修事業推進委員会	地域福祉施設「ちどり」
3月	5～6日	春の宿泊レクリエーション	筑波山温泉
	7日(火)	三役会議	地域福祉施設「ちどり」
	9日(木)	あんしんノート書き方講習会	地域福祉施設「ちどり」
	14日(火)	行政関係者との研修会	てくのかわさき
	16日(木)	第6回余暇活動委員会	地域福祉施設「ちどり」
	21日(火)	第11回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」
4月	10日(月)	平成29年度第1回研修事業推進委員会	地域福祉施設「ちどり」
	11日(火)	三役会議	地域福祉施設「ちどり」
	18日(火)	平成29年度第1回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」

各支部の新年懇談会の様子は、ホームページをご覧ください。

<対外行事>

1月	25日(水)	第5回成人を祝う会実行委員会(反省会)	地域福祉施設「ちどり」
	31日(火)	福祉有償運送運営協議会	ソリッドスクエア
2月	16日(木)	川崎市バリアフリーまちづくり連絡調整会議	ソリッドスクエア
	22日(水)	ともかわさき理事会	地域福祉施設「ちどり」
3月	2日(木)	第4回障害者団体部会	エポックなかはら
	2日(木)	全育連・行政説明会	鉄鋼会館
	3日(金)	全育連・正会員代表者・事務局長合同会議	鉄鋼会館
	3日(金)	全育連・育成会フォーラム	鉄鋼会館
	10日(金)	川崎市立中央支援学校卒業式	川崎市立中央支援学校
	13日(月)	川崎市障害者差別解消地域協議会	ソリッドスクエア
	27日(月)	川崎市障害者施策審議会	川崎市役所第4庁舎
	28日(火)	ともかわさき評議員会	地域福祉施設「ちどり」
	30日(木)	ともかわさき理事会	地域福祉施設「ちどり」
	30日(木)	やまゆり生活サポート協会理事会	神奈川県社会福祉会館

賛助会費

(順不同・敬称略)

美和 幸嗣	多摩区宿河原	10,000円	小林 文夫	高津区梶ヶ谷	5,000円
田中 浩子	幸区戸手	1,600円	渡辺 宣子	幸区小倉	10,000円
大門 紀久子	高津区坂戸	30,000円	石塚 直美	高津区新丸子	5,000円
石塚 千恵子	高津区蟹ヶ谷	5,000円	※1,000円以上の方を記載しています。		



編集後記

会報の編集に携り、自分の書いた「文章」が、読み手の方にはどう伝わるのか？と考えることがあります。そのような時に会員の方から「あの記事、とても良かった」とご意見をいただくと、うれしい気持ちになり、悩んだかきがあったと感じます。これからも会報が皆さんのお役に立てるよう努力したいと思います。

広報委員 安達 ゆかり

【もくじ】

- P. 1..... 育成会の課題とこれからの運動について
- P. 2..... 育成会代表・事務局長合同会議／行政説明会
- P. 3..... 総会開催のお知らせ／福祉大会開催案内／海水訓練お知らせ
- P. 4..... 予算要望回答／行政関係者との研修会
- P. 5..... 育成会フォーラム
- P. 6..... やまゆりとの共催研修会／やまゆり研修会／かわしんふれあい市場お知らせ
- P. 7..... NPO 権利擁護センター研修会／障害者団体部会研修会／
あんしんノート書き方講習会報告
- P. 8..... 支部通信／自由投稿
- P. 9..... 春の宿泊レクリエーション／私たちの広場／やまゆり広告
- P. 10..... 川崎市関係主要職員の紹介／卒業生の進路状況／手をつなぐ購読案内
- P. 11..... 親の会活動報告／賛助会費
- P. 12..... 春レク写真掲載／編集後記／もくじ／発行責任者

発行責任者 川崎市育成会手をむすぶ親の会 会長 結城 眞知子
〒213-0011 川崎市高津区久本 3-6-22 地域福祉施設「ちどり」
TEL : 044-812-2966 FAX : 044-813-1216 <http://web-k2.jp/ikusekai-kawasaki>